

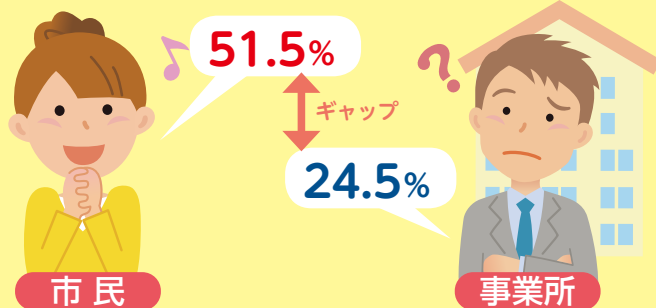
就業実態・意識に関する調査

～アンケート結果から宿泊業の雇用課題を分析～

企画財政課企画経営室 ☎ 25 1101

ホテルの仕事イメージは

「多くの人と交流できる」



意識のギャップから潜在的な魅力进行分析し、働きやすい職場づくりを目指します。



18歳～29歳の就業者が
就業先で必要と感じている改善点

- 1位 有給休暇が取得しやすい環境づくり
- 2位 評価にもとづく処遇（昇給・昇格など）
- 3位 業務負担の軽減（正社員の増員）
- 4位 休暇制度の充実

市民のかたにきいた
宿泊業のイメージ

ポジティブなイメージ

- 1位 多くの人と交流できる仕事だ
- 2位 人から感謝される仕事だ
- 3位 未経験者でも仕事ができる

ネガティブなイメージ

- 1位 体力的にきつい仕事が多い
- 2位 精神的にきつい仕事が多い
- 3位 離職率が高い

市では、昨年12月に市民の就業意識や市内事業所の就業・雇用実態を把握するために、アンケートおよびヒアリングを実施しました。今回、調査結果を踏まえて鳥羽の主産業の一つである宿泊業における雇用課題を分析しましたのでお知らせします。

くわしい結果は、市ホームページをご覧ください。

調査対象 市内在住の18歳以上の男女5000人

無作為抽出で選り、郵送およびインターネット調査により723人の市民のから回答をいただきました。

また、市内事業者1213社へ郵送調査などを実施し、212社から回答をいただきました。

若年層の要望1位
有給休暇の取得のしやすさ

若年層（18・19歳）の就業者は、ほかの世代に比べて「有給休暇を取得しやすい環境づくり」について勤務先に改善を求めています。（男性52.8%、女性60.8%）

一方、市内事業所が必要と感じている改善点も「有給休暇を取得しやすい環境づくり」が上位にあがっています。制度づくりや運用の仕組みを見直すことで、若年層が働きやすい環境と

なり、離職を防ぐことに繋がると考えられます。

市民は、ホテルや旅館などの宿泊業にポジティブイメージ

市民のホテルの仕事に対するイメージは「多くの人と交流できる仕事だ」というポジティブなイメージが51.5%であるのに対し、事業所は24.5%にとどまっています。

事業所は、市民が感じるポジティブなイメージを十分に理解できておらず、宿泊業に携わる魅力をアピールできていない可能性があります。